

第 I 部 調査結果の概要

1 平成 19 年の概況

- 鉱工業生産指数は、一般機械工業、輸送機械工業、鉄鋼などの主要業種がそろって上昇したため、5年連続で上昇した。〔現行基準で最高〕
- 期別にみると、輸送機械工業（自動車）の生産調整が大きく影響した平成 19 年 4～6 月期は低下したが、10～12 月期は上昇し、現行基準で最高となった。

(1) 鉱工業生産指数

鉱工業生産指数は、106.1（前年比 5.2% 上昇）となり、5 年連続で前年を上回った（図 1）。

業種別にみると（図 2）、ボイラの部品などの生産が伸びた一般機械工業や、鋼船新造の生産が伸びた輸送機械工業などが上昇に寄与した。一方、繊維工業やその他製品工業などが低下に寄与した。

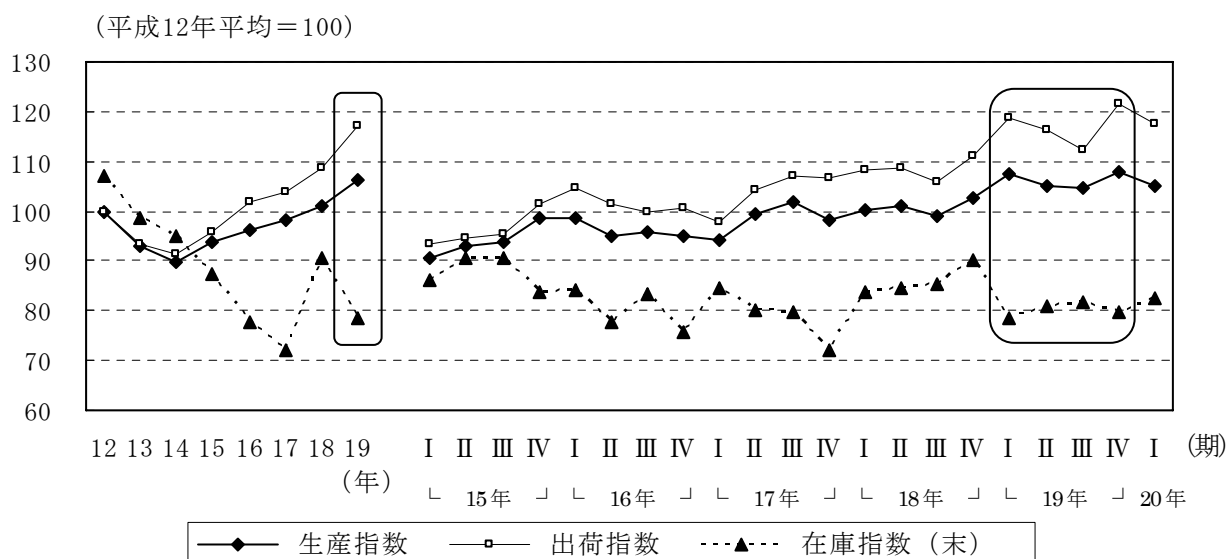
(2) 鉱工業出荷指数

鉱工業出荷指数は、電気・情報通信機械工業、輸送機械工業などが好調であったため、117.0（前年比 7.8% 上昇）となり、5 年連続で前年を上回った（図 1）。

(3) 鉱工業在庫指数（末）

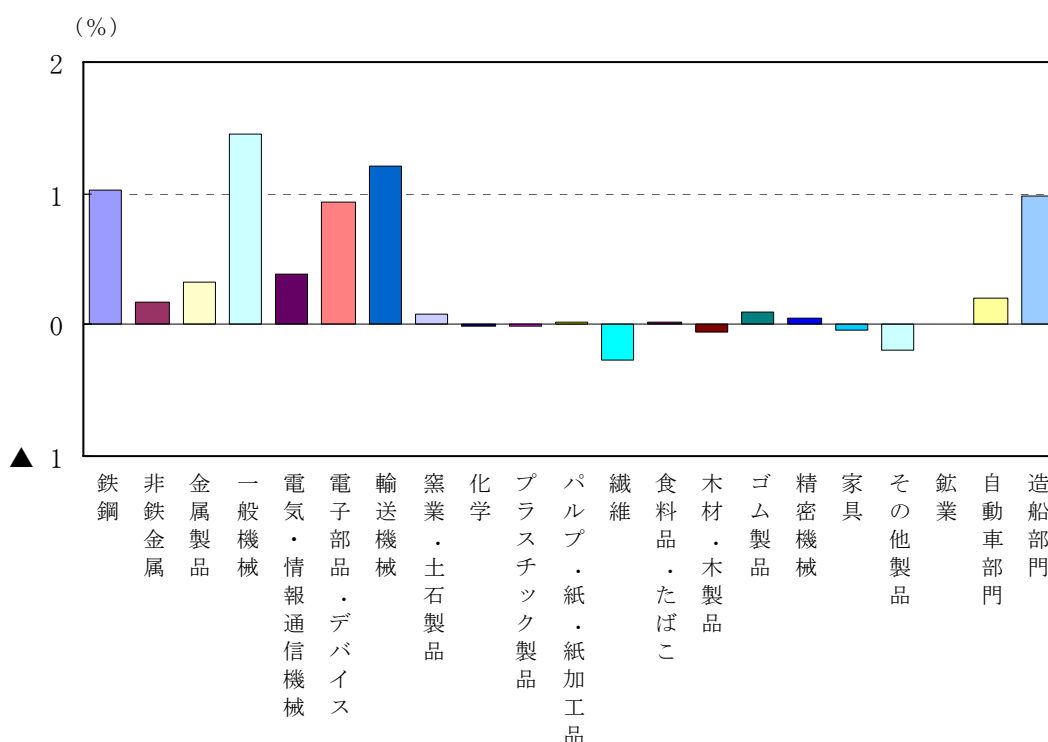
鉱工業在庫指数（末）は、普通自動車の在庫が減少した輸送機械工業が大きく寄与し、78.5（前年比▲13.4% 低下）となり、2 年ぶりに前年を下回った（図 1）。

図 1 鉱工業指数の推移（年は原指数，四半期は季節調整済指数）



（注） I：1～3月，II：4～6月，III：7～9月，IV：10～12月

図2 平成19年における鉱工業生産指数の前年比に対する業種別寄与度^注



(注) 寄与度とは、全体の上昇・低下に対し、各業種の上昇・低下がどの程度影響を与えているかを示したものである。

2 生産の業種別動向（寄与度順）

(1) 前年比が上昇した業種

上昇した主な業種	前年比	寄与度	上昇した主な品目
一般機械工業	11.4%	1.5%	ボイラの部品, 反応用機器, ショベル系掘削機
輸送機械工業	5.4%	1.2%	鋼船新造, 小型自動車, 鋼船修理
鉄鋼業	6.7%	1.0%	鋼帯, 亜鉛めっき鋼板, 鋼半製品

(2) 前年比が低下した主な業種

低下した主な業種	前年比	寄与度	低下した主な品目
繊維工業	▲10.0%	▲0.3%	織物製外衣, 化学合成繊維, ニット生地
その他製品工業	▲16.4%	▲0.2%	運動競技用品, 電動玩具, ボールペン
木材・木製品工業	▲2.5%	▲0.1%	製材品, 特殊合板, 防腐木材

3 関連業種別生産指数の推移

機械関連業種・素材関連業種は上昇，生活関連業種は低下

業種別の生産指数を機械関連業種，素材関連業種，生活関連業種の3つに分けて分析すると注（図3），平成19年の生産指数の上昇には，機械関連業種が大きく寄与していることが分かる。機械関連業種は，素材関連業種及び生活関連業種と比べウェイトが高く，変動幅も大きいいため，鉱工業指数全体の動きを左右することが多い。

関連業種別にみると（図4），機械関連業種は平成14年を底として上昇が続いている。

また，平成16年以降低下が続いていた素材関連業種は，4年ぶりに上昇し，平成17年に上昇した生活関連業種は，再び低下傾向となっている。

図3 鉱工業生産指数の前年比の推移

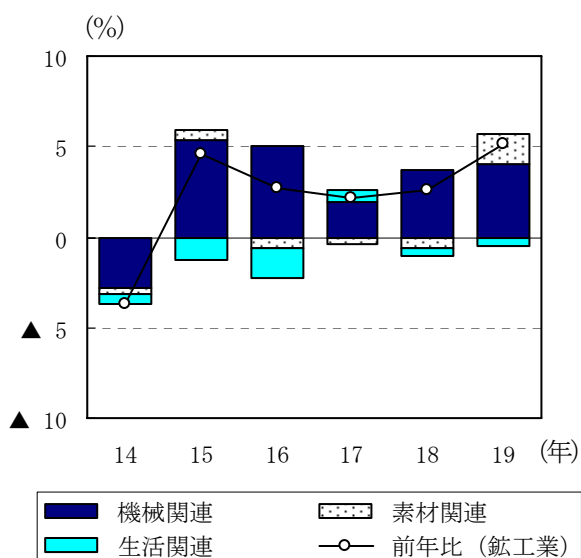
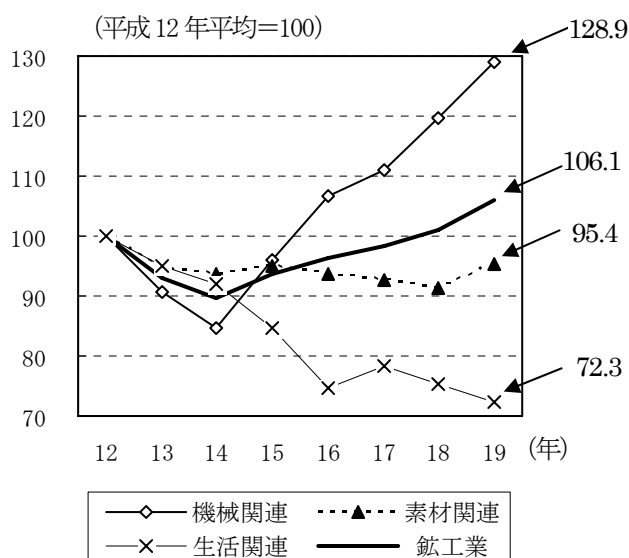


図4 関連業種別生産指数の推移



（注）各関連業種の分類は，次のとおりとした。

機械関連業種：一般機械工業，電気・情報通信機械工業，電子部品・デバイス工業，輸送機械工業，精密機械工業

素材関連業種：鉄鋼業，非鉄金属工業，金属製品工業，窯業・土石製品工業，化学工業，プラスチック工業，パルプ・紙・紙加工品工業，木材・木製品工業，ゴム製品工業

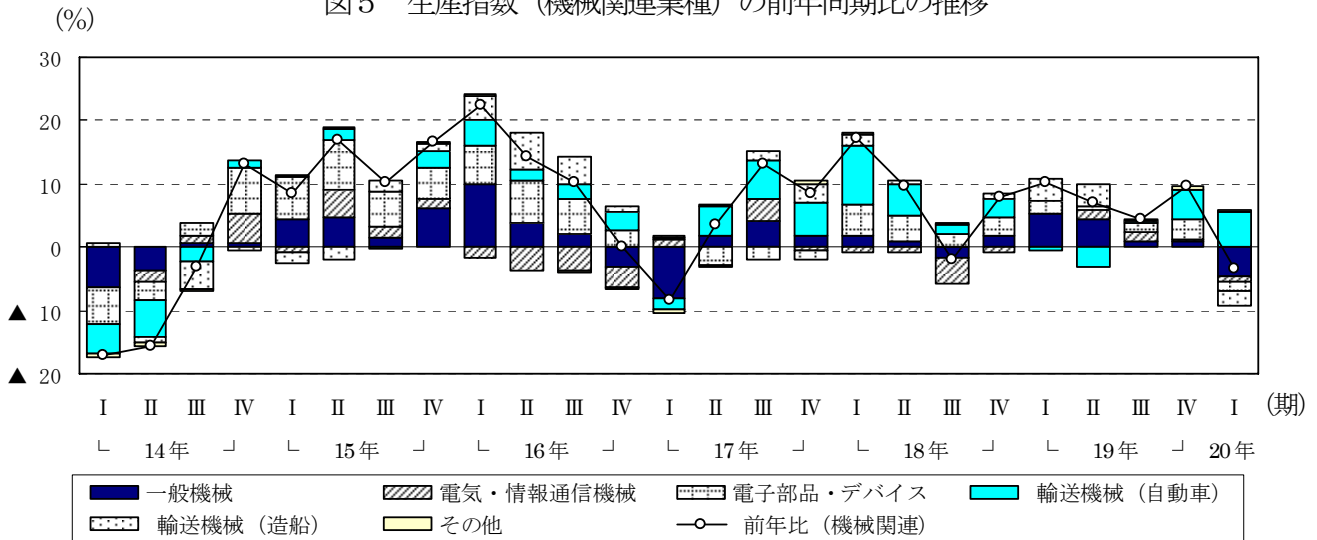
生活関連業種：繊維工業，食料品・たばこ工業，家具工業，その他製品工業

（1）機械関連業種の生産指数の推移

機械関連業種の生産指数は，一般機械工業・輸送機械工業がけん引

機械関連業種の生産指数は，一般機械工業，輸送機械工業などが寄与し，プラスで推移した。平成19年1～3月期及び4～6月期では一般機械工業及び輸送機械工業（造船），平成19年10～12月期では輸送機械工業（自動車）が上昇に大きく寄与した（図5）。

図5 生産指数（機械関連業種）の前年同期比の推移



① 一般機械工業

一般機械工業の生産指数は111.1，前年比11.4%上昇した。素材関連業種，生活関連業種も含め，全業種の中で最も上昇に寄与した。四半期ごとにみると，平成19年1～3月期が前年同期比21.0%上昇となるなど，平成19年は各期とも前年同期を上回った。

② 電気・情報通信機械工業

電気・情報通信機械工業は100.1，前年比8.0%上昇した。非標準変圧器，PHS・携帯電話などが上昇に大きく寄与した。

③ 電子部品・デバイス工業

電子部品・デバイス工業は167.7，前年比8.7%上昇した。パッシブ型液晶素子が低下に寄与したものの，半導体集積回路が上昇に大きく寄与した。四半期ごとにみると，平成19年10～12月期が前年同期比15.7%上昇となるなど，平成19年は各期とも前年同期を上回った。

④ 輸送機械工業（自動車部門）

輸送機械工業（自動車部門）は123.5，前年比1.5%上昇した。小型自動車，機関部品などが上昇に寄与し，小型トラック，普通自動車などが低下に寄与した。四半期ごとにみると，平成18年10～12月期まで7期連続で前年同期を大きく上回っていたが，生産調整等により平成19年1～3月期及び4～6月期は下回り，その後，10～12月期にはまた前年同期を大きく上回った。

⑤ 輸送機械工業（造船部門）

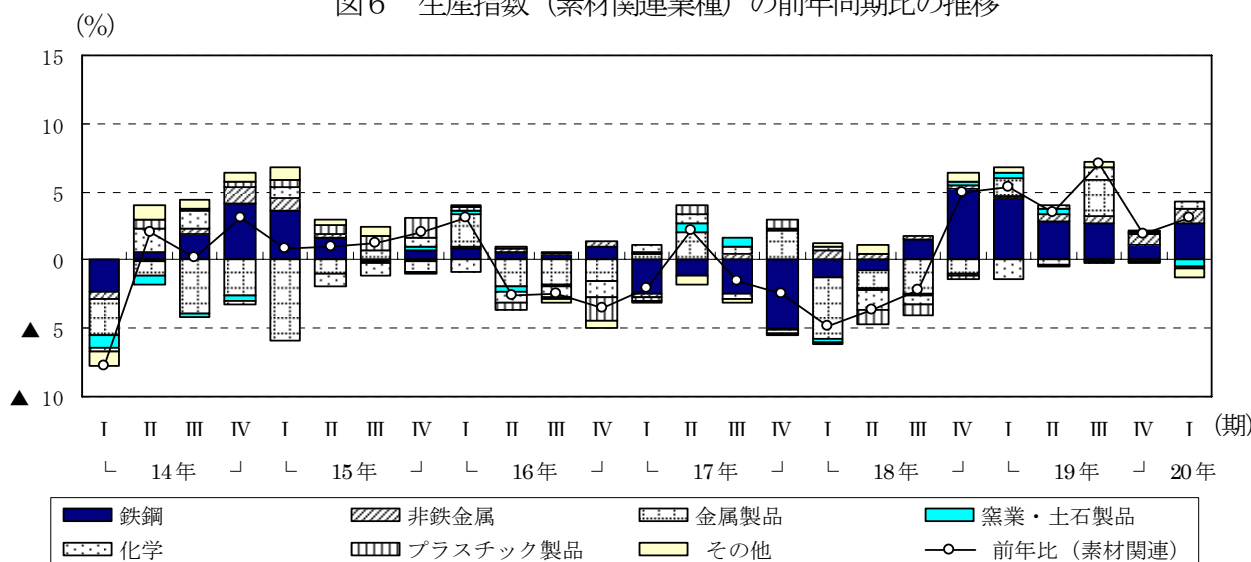
輸送機械工業（造船部門）は164.2，前年比11.5%上昇した。鋼船の建造，修理とも前年を上回った。四半期ごとにみると，平成19年1～3月期が前年同期比22.9%上昇となるなど，平成19年は各期とも前年同期を上回った。

(2) 素材関連業種の生産指数の推移

素材関連業種の生産指数は、4年ぶりに上昇

素材関連業種の生産指数は、鉄鋼業が大きく寄与し、4年ぶりに上昇した。四半期ごとにみると、平成19年7～9月期は前年同期比が7.0%上昇となるなど、平成19年は各期とも前年同期を上回った(図6)。

図6 生産指数(素材関連業種)の前年同期比の推移



① 鉄鋼業

鉄鋼業の生産指数は104.5、前年比6.7%上昇した。鋼帯や亜鉛めっき鋼板などが上昇に寄与した。四半期ごとにみると、平成19年1～3月期が前年同期比11.4%上昇となるなど、平成19年は各期とも前年同期を大きく上回った。

② 金属製品工業

金属製品工業は62.6、前年比8.3%上昇した。橋りょう、食缶などが上昇に寄与し、水門、鉄骨などが低下に寄与した。

③ 化学工業

化学工業は85.4、前年比▲0.2%低下した。酸素、メタクリル酸エステル・モノマーなどが上昇したものの、医薬品、酢酸などが低下に寄与した。四半期ごとにみると、平成18年4～6月期から4期連続して前年同期を下回っていたが、平成19年4～6月期以降は3期連続して前年同期を上回っている。

④ プラスチック製品工業

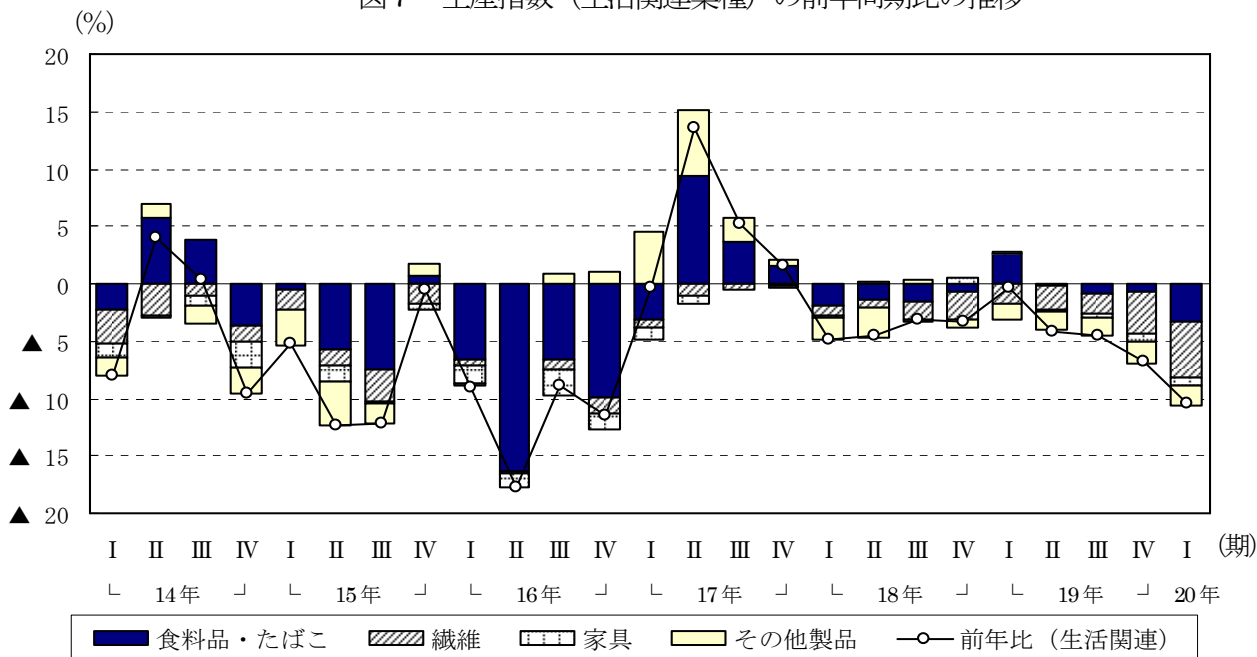
プラスチック製品工業は107.7、前年比▲0.5%低下した。容器、フィルムなどが上昇に寄与したものの、機械器具部品、強化製品などが低下に寄与した。四半期ごとにみると、平成19年10～12月期に前年同期を上回ったが、他期は前年同期を下回った。

(3) 生活関連業種の生産指数の推移

生活関連業種の生産指数は2年連続で低下

生活関連業種の生産指数は、食料品・たばこ工業が上昇したものの、繊維工業、その他製品工業が低下に寄与し、前年を下回った(図7)。

図7 生産指数(生活関連業種)の前年同期比の推移



① 食料品・たばこ工業

食料品・たばこ工業の生産指数は80.6、前年比0.2%上昇した。清涼し好飲料、菓子パンなどが上昇に寄与し、缶詰、飲用牛乳などが低下に寄与した。四半期ごとにみると、平成19年1～3月期は前年同期を上回ったが、他期は前年同期を下回った。

② 繊維工業

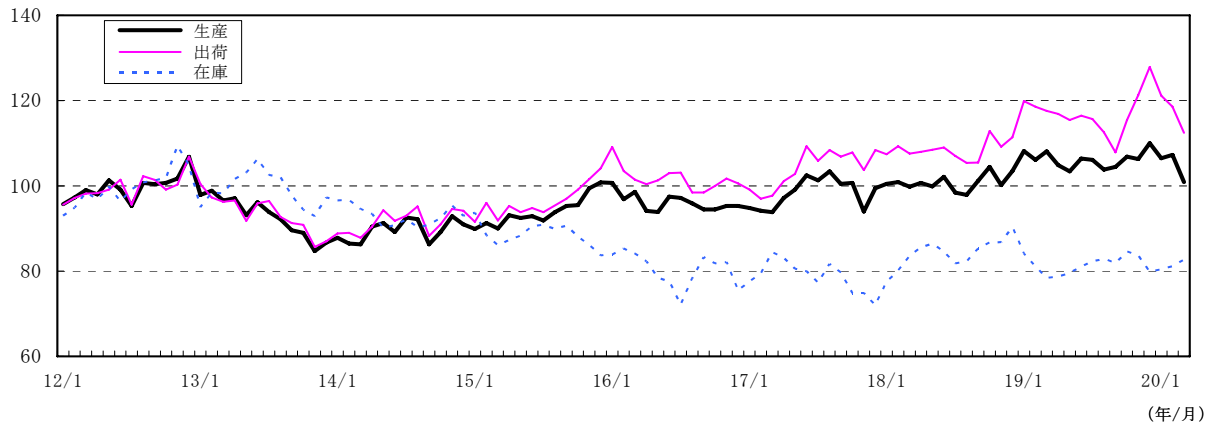
繊維工業は64.6、前年比▲10.0%低下した。ポリエステル糸、漁網などは上昇したものの、織物製外衣、化学合成繊維など、低下する品目が多かった。四半期ごとにみると、平成13年4～6月期以降は、平成20年1～3月期まで28期連続して、前年同期を下回っている。

③ その他製品工業

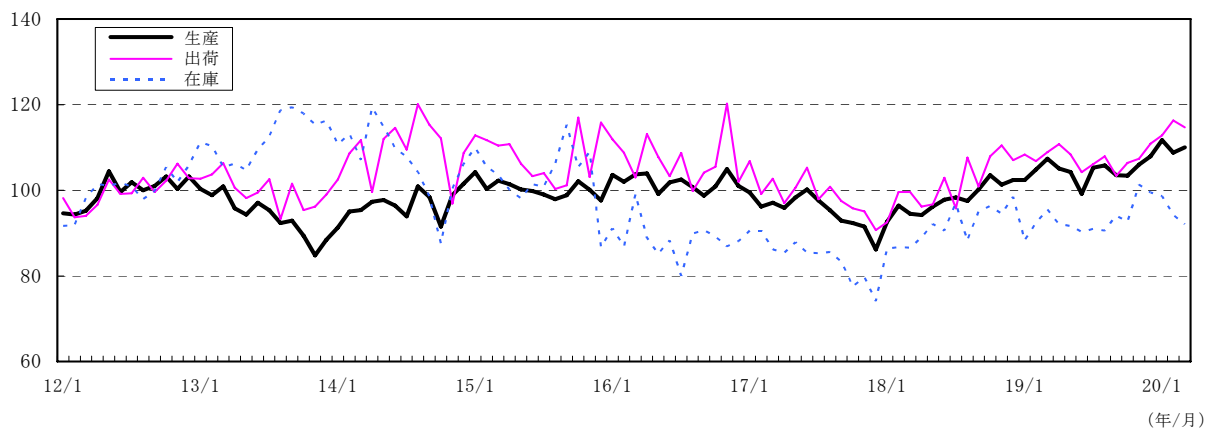
その他製品工業は62.0、前年比▲16.4%低下した。運動競技用品、電動玩具などが低下に寄与した。

4 主要業種別季節調整済指数の推移 (平成12年平均 = 100)

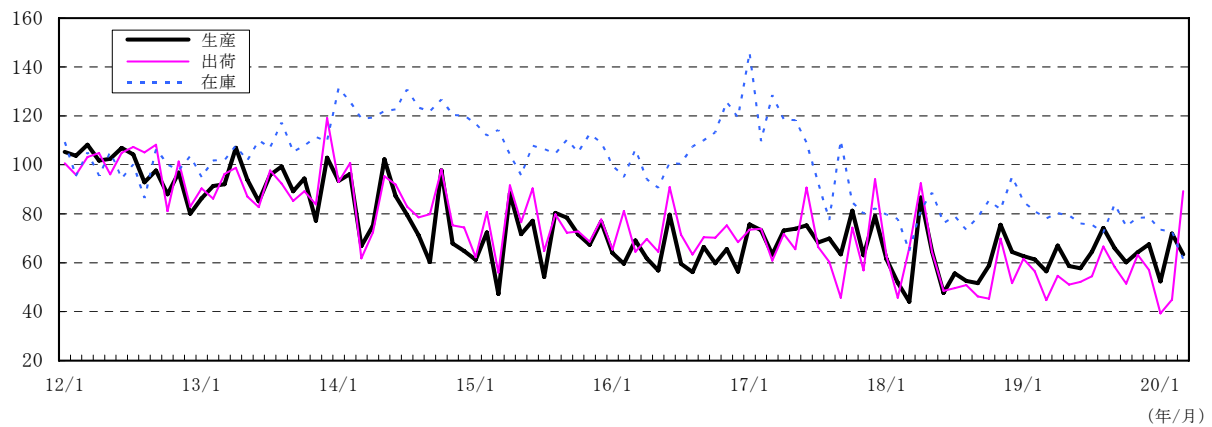
鋳工業 (生産ウエイト=10000.0)



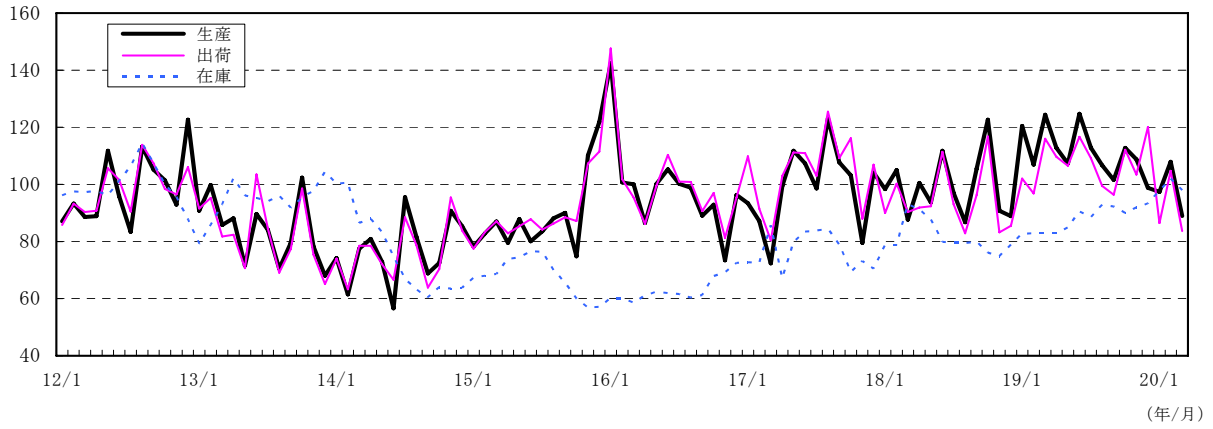
鉄鋼業 (生産ウエイト=1577.0)



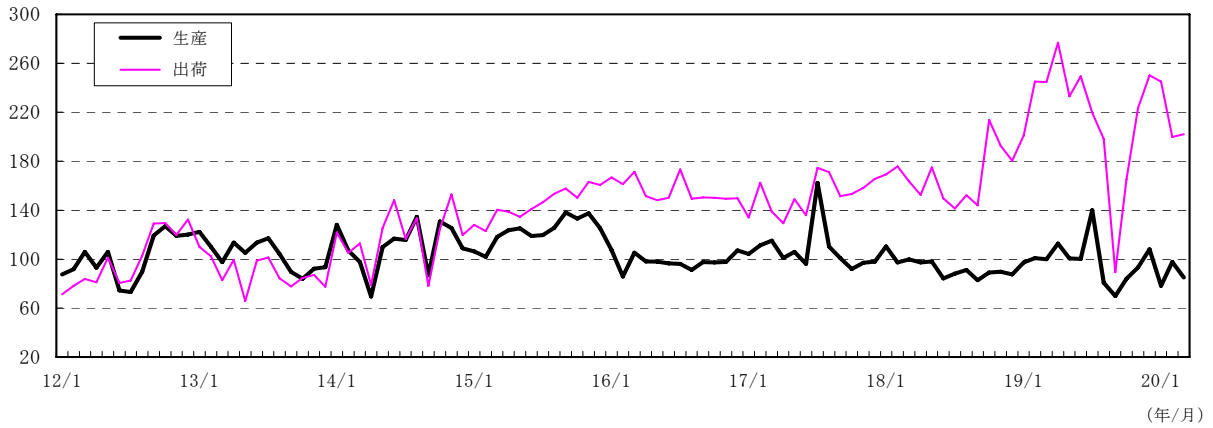
金属製品工業 (生産ウエイト=685.3)



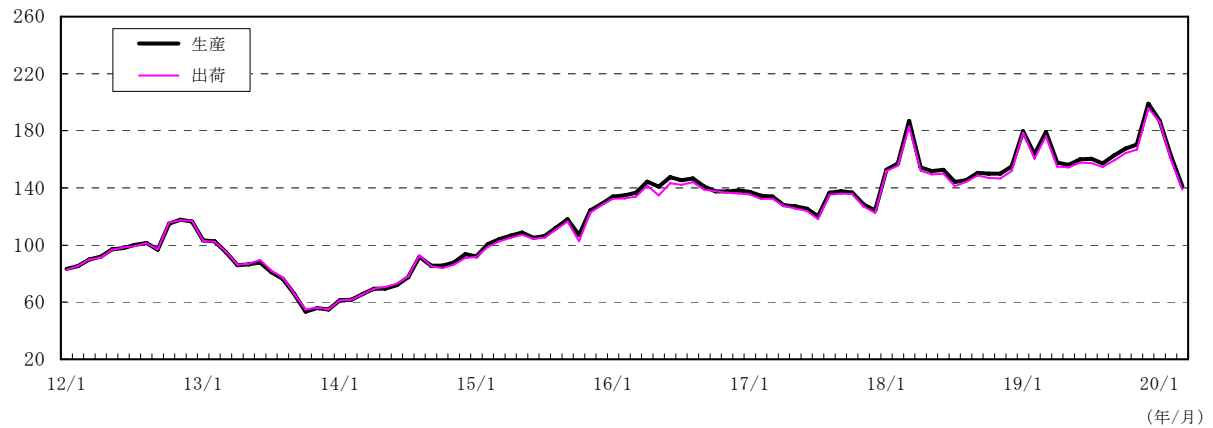
一般機械工業（生産ウエイト=1288.7）



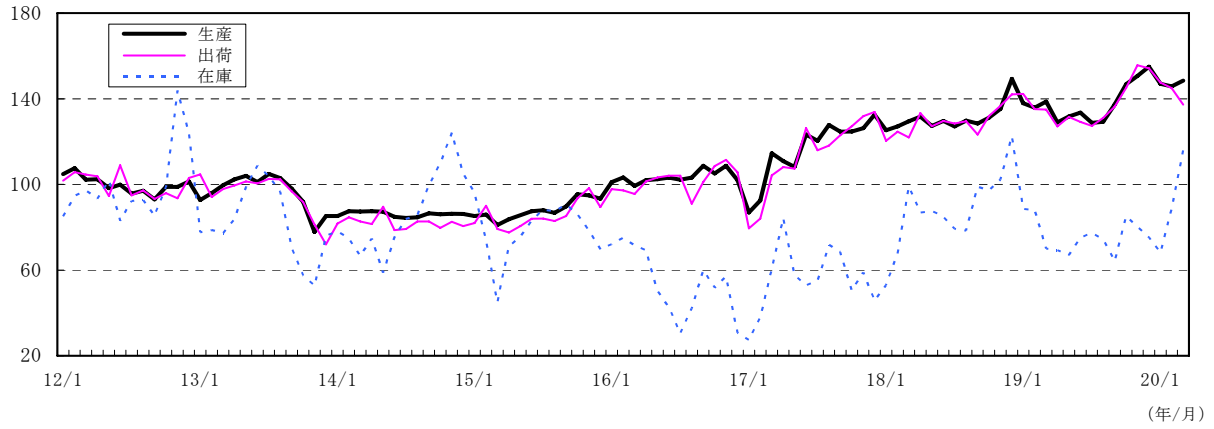
電気・情報通信機械工業（生産ウエイト=518.1）



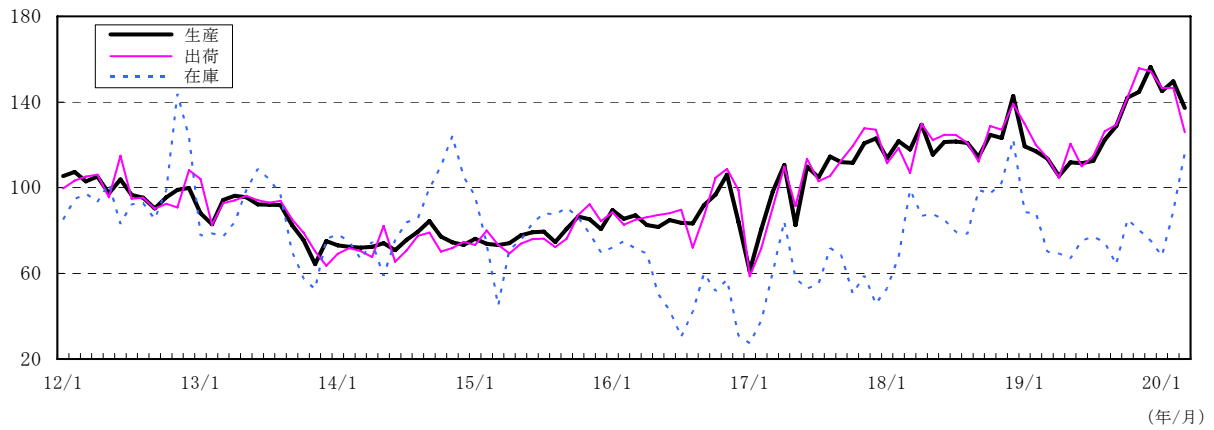
電子部品・デバイス工業（生産ウエイト=703.4）



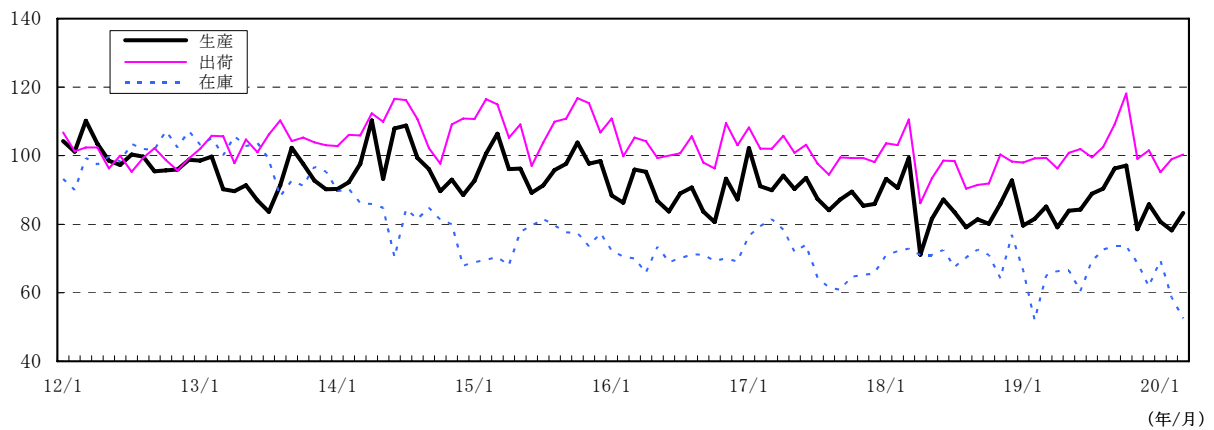
輸送機械工業（生産ウエイト＝1706.8）



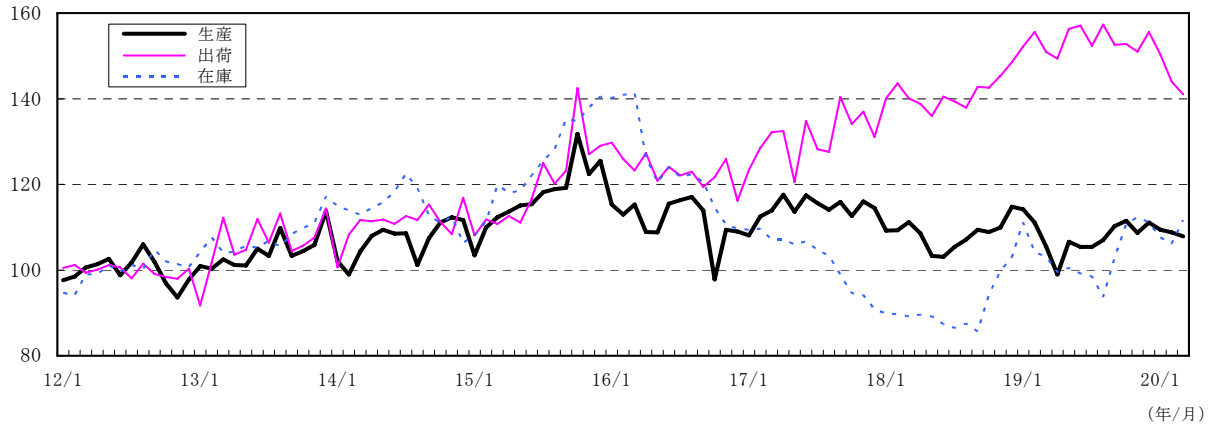
自動車部門（生産ウエイト＝1115.8）



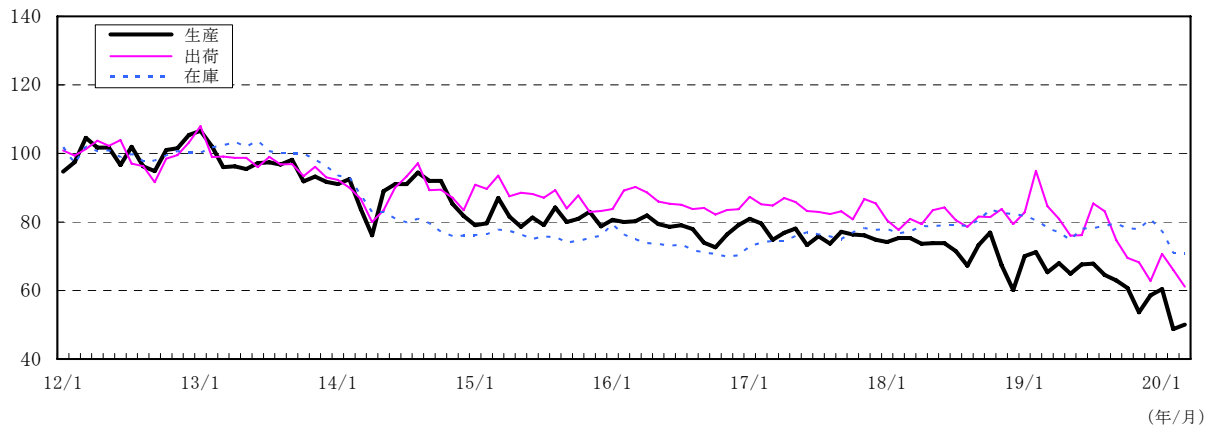
化学工業（生産ウエイト＝423.0）



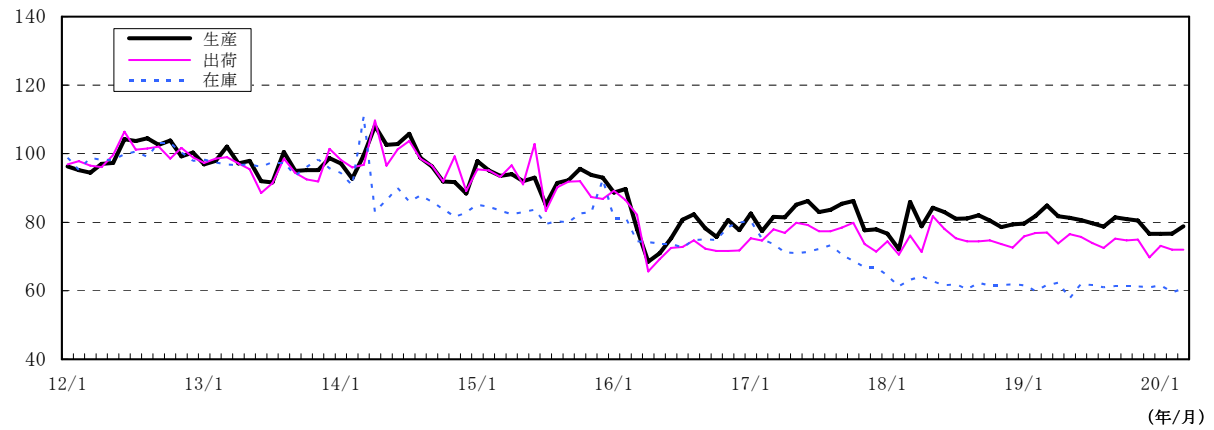
プラスチック製品工業（生産額1000億円=352.6）



繊維工業（生産額1000億円=379.2）

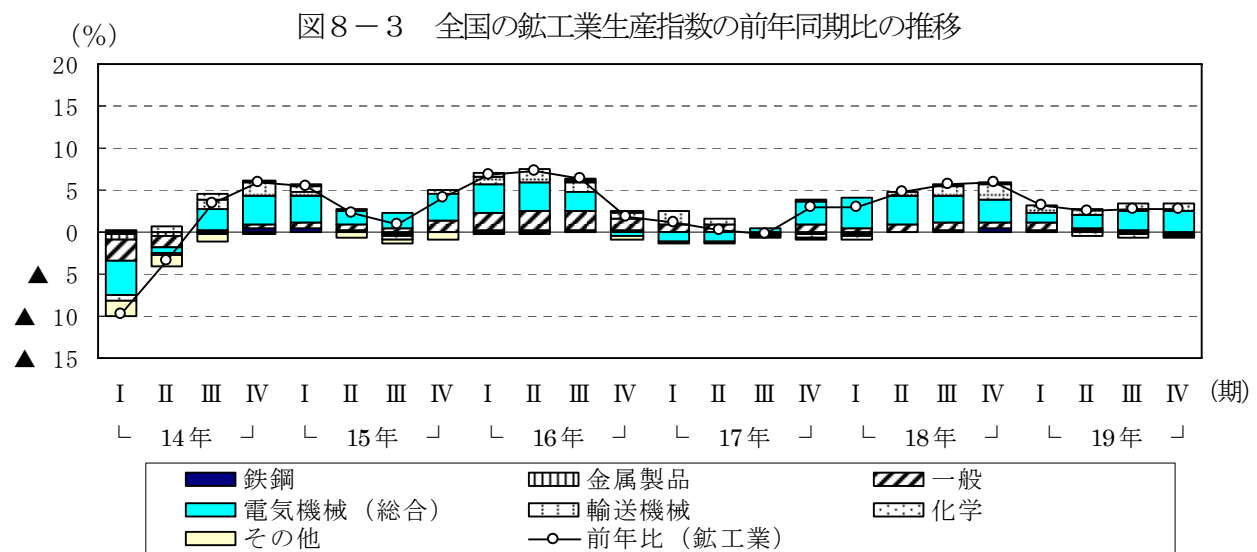
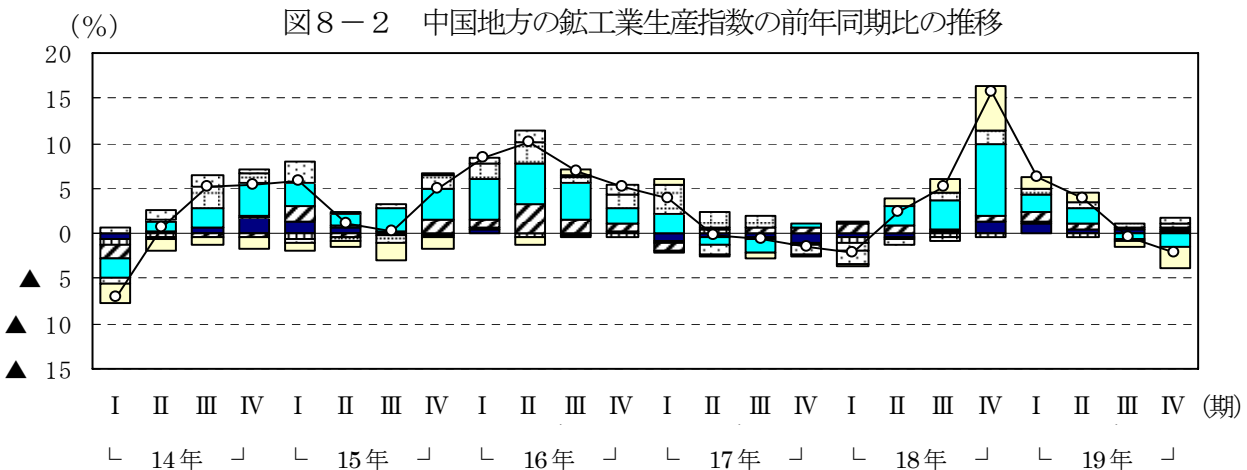
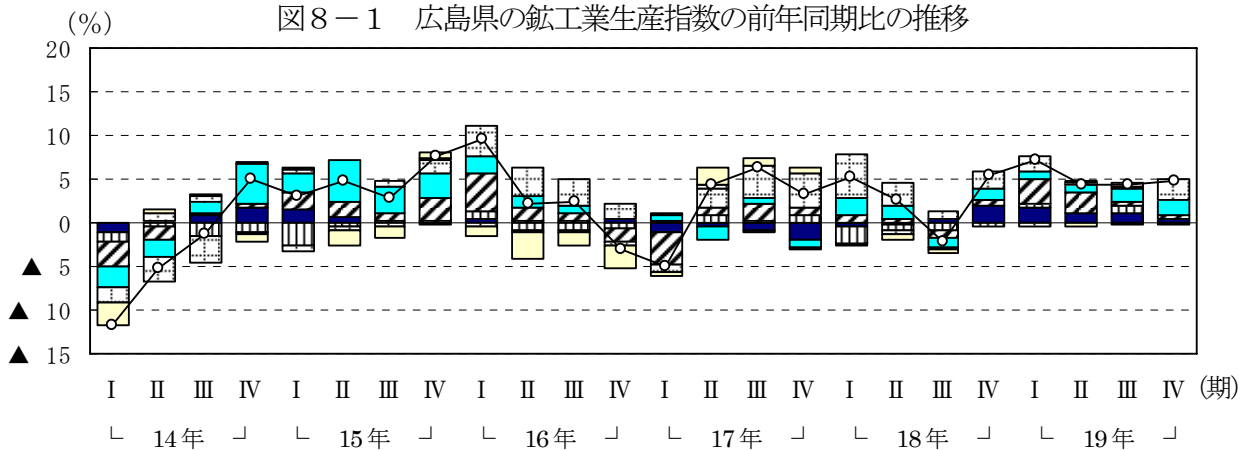


食料品・たばこ工業（生産額1000億円=954.6）



5 広島県、中国地方及び全国における鋳工業生産指数の推移

平成 19 年を四半期ごとにみると（図 8），広島県は各期とも前年同期を上回り，中国地方は平成 19 年 10～12 月期を除いて，それぞれ前年同期を上回り，全国は各期とも前年同期を上回った。



出所：中国地方…「中国地域鋳工業生産動向」（経済産業省中国経済産業局） 全国…「鋳工業生産・出荷・在庫指数」（経済産業省）

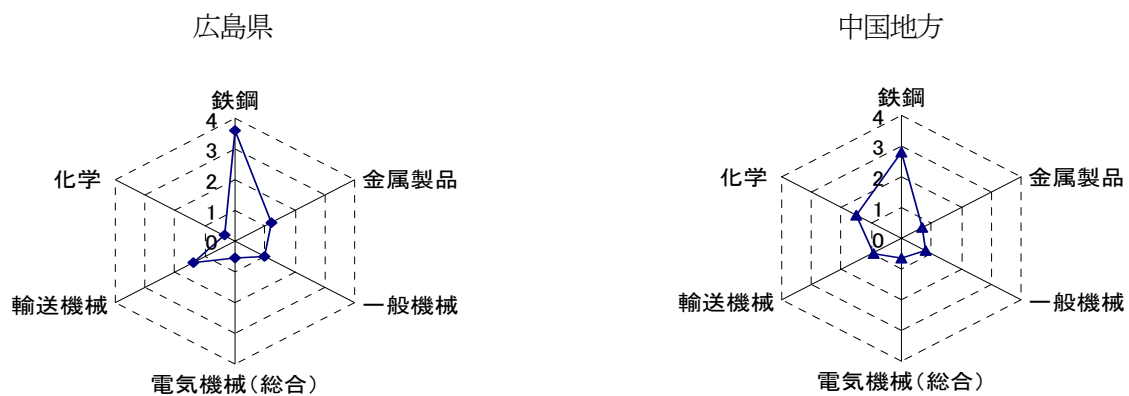
平成 19 年は、広島県は一般機械工業などがけん引し、中国地方及び全国は電気機械工業（総合）などがけん引して、前年同期に比べて鉱工業生産水準を押し上げた。

また、広島県の前年同期比は、各期とも中国地方及び全国の前年同期比を上回った。

参考 鉱工業生産指数のウェイト（平成 12 年基準）について

特化係数^注を用いて、広島県及び中国地方の産業構造が全国と比較してどの程度偏りがあるかみてみると（図 9）、広島県及び中国地方は、鉄鋼業への特化の度合いが大きい。また、広島県は、金属製品工業及び輸送機械工業への特化の度合いも比較的大きい一方、化学工業及び電気機械工業（総合）への特化の度合いが比較的小さい。

図 9 主要業種における広島県及び中国地方の特化係数（平成 12 年基準）



(注) 特化係数 = 各地域の構成比 ÷ 全国の構成比

（特化係数が 1 を超える（下回る）と、その地域においてその業種の構成比が全国平均よりも相対的に高い（低い）ことを表す。）

別表 広島県、中国地方及び全国の鉱工業生産指数

(平成12年平均=100)

年・期・月	広島県				中国地方				全国			
	季節調整 済指数	前 (期) 月 比	原指数	前年(同 月期) 比	季節調整 済指数	前 (期) 月 比	原指数	前年(同 月期) 比	季節調整 済指数	前 (期) 月 比	原指数	前年(同 月期) 比
平成12年			100.0	7.4			100.0	4.6			100.0	5.7
13年			93.0	▲7.0			93.3	▲6.7			93.2	▲6.8
14年			89.6	▲3.7			94.1	0.9			92.0	▲1.3
15年			93.7	4.6			97.0	3.1			95.0	3.3
16年			96.2	2.7			104.4	7.6			100.2	5.5
17年			98.3	2.2			104.8	0.4			101.3	1.1
18年			100.9	2.6			110.3	5.2			106.2	4.8
19年			106.1	5.2			112.3	1.8			109.1	2.7
平成14年Ⅰ期	86.9	0.1	89.5	▲11.8	90.1	▲1.1	91.0	▲7.0	89.2	0.8	89.2	▲9.8
Ⅱ期	90.3	3.9	87.7	▲5.2	94.3	4.7	91.6	0.7	91.8	2.9	89.9	▲3.4
Ⅲ期	90.4	0.1	91.8	▲1.2	96.3	2.1	97.4	5.1	93.4	1.7	93.9	3.3
Ⅳ期	91.0	0.7	89.4	4.9	96.1	▲0.2	96.6	5.5	93.8	0.4	95.2	6.0
15年Ⅰ期	90.4	▲0.7	92.3	3.1	95.9	▲0.2	96.4	5.9	94.0	0.2	94.1	5.5
Ⅱ期	92.8	2.7	91.8	4.7	94.9	▲1.0	92.5	1.0	93.6	▲0.4	91.9	2.2
Ⅲ期	93.7	1.0	94.5	2.9	96.3	1.5	97.7	0.3	94.5	1.0	94.8	1.0
Ⅳ期	98.6	5.2	96.3	7.7	101.0	4.9	101.4	5.0	98.2	3.9	99.1	4.1
16年Ⅰ期	98.7	0.1	101.1	9.5	102.8	1.8	104.6	8.5	98.9	0.7	100.6	6.9
Ⅱ期	95.2	▲3.5	93.7	2.1	104.9	2.0	101.9	10.2	100.8	1.9	98.5	7.2
Ⅲ期	95.9	0.7	96.7	2.3	103.2	▲1.6	104.3	6.8	100.7	▲0.1	100.9	6.4
Ⅳ期	95.0	▲0.9	93.4	▲3.0	105.9	2.6	106.7	5.2	99.8	▲0.9	100.9	1.8
17年Ⅰ期	94.3	▲0.7	96.1	▲4.9	107.3	1.3	108.7	3.9	101.2	1.4	101.8	1.2
Ⅱ期	99.6	5.6	97.7	4.3	104.9	▲2.2	101.7	▲0.2	101.1	▲0.1	98.8	0.3
Ⅲ期	101.7	2.1	102.9	6.4	103.0	▲1.8	103.6	▲0.7	100.6	▲0.5	100.7	▲0.2
Ⅳ期	98.1	▲3.5	96.4	3.2	105.0	1.9	105.2	▲1.4	103.4	2.8	103.9	3.0
18年Ⅰ期	100.4	2.3	101.2	5.3	104.5	▲0.5	106.3	▲2.2	103.8	0.4	104.9	3.0
Ⅱ期	100.9	0.5	100.2	2.6	106.9	2.3	104.2	2.5	105.2	1.3	103.4	4.7
Ⅲ期	99.2	▲1.7	100.6	▲2.2	109.1	2.1	108.9	5.1	106.6	1.3	106.3	5.6
Ⅳ期	102.7	3.5	101.6	5.4	120.6	10.5	121.8	15.8	108.9	2.2	110.1	6.0
19年Ⅰ期	107.5	4.7	108.5	7.2	111.4	▲7.6	112.9	6.2	107.5	▲1.3	108.1	3.1
Ⅱ期	104.9	▲2.4	104.5	4.3	111.7	0.3	108.4	4.0	107.7	0.2	105.9	2.4
Ⅲ期	104.8	▲0.1	104.9	4.3	110.2	▲1.3	108.6	▲0.3	110.1	2.2	109.2	2.7
Ⅳ期	107.7	2.8	106.5	4.8	115.9	5.2	119.2	▲2.1	111.5	1.3	113.2	2.8
平成15年1月	89.9	▲1.2	84.0	1.2	96.0	1.2	91.3	6.7	94.8	1.3	87.5	7.9
2月	91.3	1.6	88.4	5.4	95.7	▲0.3	91.2	5.2	93.6	▲1.3	91.0	4.7
3月	90.0	▲1.4	104.4	2.7	96.1	0.4	106.8	6.2	93.6	0.0	103.7	4.0
4月	93.1	3.4	91.7	4.2	94.8	▲1.4	93.0	2.0	93.1	▲0.5	90.7	3.0
5月	92.5	▲0.6	91.4	3.4	95.5	0.7	91.7	1.7	94.1	1.1	90.0	1.1
6月	92.9	0.4	92.2	6.3	94.5	▲1.0	92.7	▲0.6	93.5	▲0.6	95.0	2.6
7月	91.9	▲1.1	95.1	▲3.7	95.0	0.5	99.2	▲1.3	94.0	0.5	97.3	▲0.1
8月	93.8	2.1	88.9	1.4	95.3	0.3	91.6	▲2.8	93.0	▲1.1	85.7	▲1.3
9月	95.3	1.6	99.4	11.8	98.7	3.6	102.4	4.9	96.4	3.7	101.3	4.0
10月	95.5	0.2	92.2	5.9	99.6	0.9	99.2	4.2	97.5	1.1	100.8	3.9
11月	99.4	4.1	96.4	5.2	101.1	1.5	100.1	2.2	98.8	1.3	97.9	2.8
12月	100.8	1.4	100.3	12.2	102.4	1.3	104.8	8.4	98.2	▲0.6	98.7	5.8
16年1月	100.7	▲0.1	95.4	13.6	105.0	2.5	99.0	8.4	101.0	2.9	92.2	5.4
2月	96.9	▲3.8	93.3	5.5	101.9	▲3.0	99.7	9.3	97.2	▲3.8	97.1	6.7
3月	98.6	1.8	114.5	9.7	101.4	▲0.5	115.1	7.8	98.4	1.2	112.4	8.4

(平成12年平均=100)

年 月	広 島 県				中 国 地 方				全 国			
	季節調整 済指数	前 月 (期) 比	原指数	前年(同 月期) 比	季節調整 済指数	前 月 (期) 比	原指数	前年(同 月期) 比	季節調整 済指数	前 月 (期) 比	原指数	前年(同 月期) 比
平成 16年 4月	94.1	▲ 4.6	92.0	0.3	104.2	2.8	102.4	10.1	101.0	2.6	98.5	8.6
5月	93.9	▲ 0.2	91.0	▲ 0.4	105.1	0.9	98.6	7.5	100.5	▲ 0.5	93.4	3.8
6月	97.5	3.8	98.2	6.5	105.3	0.2	104.7	12.9	101.0	0.5	103.6	9.1
7月	97.2	▲ 0.3	100.3	5.5	104.0	▲ 1.2	106.8	7.7	101.1	0.1	103.3	6.2
8月	95.9	▲ 1.3	91.9	3.4	104.6	0.6	101.4	10.7	100.8	▲ 0.3	93.9	9.6
9月	94.5	▲ 1.5	98.0	▲ 1.4	101.0	▲ 3.4	104.7	2.2	100.2	▲ 0.6	105.4	4.0
10月	94.5	0.0	90.8	▲ 1.5	103.9	2.9	101.2	2.0	99.1	▲ 1.1	99.9	▲ 0.9
11月	95.3	0.8	94.2	▲ 2.3	103.8	▲ 0.1	105.4	5.3	100.2	1.1	102.2	4.4
12月	95.3	0.0	95.2	▲ 5.1	110.1	6.1	113.4	8.2	100.0	▲ 0.2	100.6	1.9
17年 1月	94.8	▲ 0.5	88.5	▲ 7.2	108.6	▲ 1.4	104.4	5.5	101.9	1.9	93.8	1.7
2月	94.2	▲ 0.6	89.4	▲ 4.2	106.7	▲ 1.7	101.9	2.2	101.0	▲ 0.9	98.1	1.0
3月	93.8	▲ 0.4	110.5	▲ 3.5	106.7	0.0	119.8	4.1	100.6	▲ 0.4	113.5	1.0
4月	97.2	3.6	94.3	2.5	106.4	▲ 0.3	103.7	1.3	101.7	1.1	98.4	▲ 0.1
5月	99.1	2.0	94.5	3.8	103.6	▲ 2.6	97.6	▲ 1.0	100.9	▲ 0.8	94.6	1.3
6月	102.5	3.4	104.2	6.1	104.6	1.0	103.9	▲ 0.8	100.8	▲ 0.1	103.4	▲ 0.2
7月	101.3	▲ 1.2	103.3	3.0	100.6	▲ 3.8	101.6	▲ 4.9	99.9	▲ 0.9	100.6	▲ 2.6
8月	103.4	2.1	101.4	10.3	104.7	4.1	102.3	0.9	100.9	1.0	95.2	1.4
9月	100.5	▲ 2.8	104.0	6.1	103.6	▲ 1.1	106.8	2.0	101.1	0.2	106.3	0.9
10月	100.7	0.2	95.2	4.8	105.4	1.7	102.6	1.4	101.6	0.5	102.0	2.1
11月	94.0	▲ 6.7	94.3	0.1	104.0	▲ 1.3	104.9	▲ 0.5	103.6	2.0	105.7	3.4
12月	99.5	5.9	99.8	4.8	105.6	1.5	108.2	▲ 4.6	104.9	1.3	104.1	3.5
18年 1月	100.5	1.0	92.6	4.6	102.8	▲ 2.7	99.3	▲ 4.9	103.8	▲ 1.0	96.1	2.5
2月	100.9	0.4	97.3	8.8	106.3	3.4	103.1	1.2	103.3	▲ 0.5	101.4	3.4
3月	99.8	▲ 1.1	113.6	2.8	104.3	▲ 1.9	116.4	▲ 2.8	104.3	1.0	117.1	3.2
4月	100.7	0.9	98.6	4.6	105.5	1.2	102.9	▲ 0.8	104.9	0.6	102.4	4.1
5月	99.9	▲ 0.8	96.6	2.2	105.6	0.1	100.3	2.8	104.6	▲ 0.3	99.0	4.7
6月	102.1	2.2	105.4	1.2	109.5	3.7	109.4	5.3	106.1	1.4	108.9	5.3
7月	98.4	▲ 3.6	100.6	▲ 2.6	108.3	▲ 1.1	108.4	6.7	106.0	▲ 0.1	106.2	5.6
8月	97.9	▲ 0.5	94.7	▲ 6.6	106.5	▲ 1.7	104.1	1.8	107.2	1.1	101.0	6.1
9月	101.2	3.4	106.4	2.3	112.4	5.5	114.1	6.8	106.7	▲ 0.5	111.7	5.1
10月	104.5	3.3	100.9	6.0	122.2	8.7	120.7	17.6	108.3	1.5	109.6	7.5
11月	100.2	▲ 4.1	99.2	5.2	121.9	▲ 0.2	123.2	17.4	108.7	0.4	111.2	5.2
12月	103.5	3.3	104.8	5.0	117.6	▲ 3.5	121.4	12.2	109.6	0.8	109.4	5.1
19年 1月	108.2	4.5	102.2	10.4	109.5	▲ 6.9	107.2	8.0	107.1	▲ 2.3	100.3	4.4
2月	106.1	▲ 1.9	100.6	3.4	112.4	2.6	107.6	4.4	107.9	0.7	104.5	3.1
3月	108.1	1.9	122.7	8.0	112.4	0.0	123.9	6.4	107.6	▲ 0.3	119.4	2.0
4月	104.9	▲ 3.0	101.4	2.8	114.8	2.1	112.3	9.1	107.4	▲ 0.2	104.7	2.2
5月	103.4	▲ 1.4	101.2	4.8	111.7	▲ 2.7	106.3	6.0	107.1	▲ 0.3	102.8	3.8
6月	106.4	2.9	110.8	5.1	108.5	▲ 2.9	106.5	▲ 2.7	108.5	1.3	110.1	1.1
7月	106.1	▲ 0.3	110.1	9.4	110.7	2.0	110.6	2.0	108.1	▲ 0.4	109.6	3.2
8月	103.8	▲ 2.2	98.8	4.3	108.2	▲ 2.3	104.3	0.2	111.9	3.5	105.4	4.4
9月	104.5	0.7	105.9	▲ 0.5	111.7	3.2	110.9	▲ 2.8	110.3	▲ 1.4	112.6	0.8
10月	106.9	2.3	105.0	4.1	115.4	3.3	116.8	▲ 3.2	112.2	1.7	114.8	4.7
11月	106.3	▲ 0.6	105.0	5.8	117.0	1.4	121.2	▲ 1.6	110.4	▲ 1.6	114.4	2.9
12月	110.0	3.5	109.4	4.4	115.2	▲ 1.5	119.6	▲ 1.5	112.0	1.4	110.3	0.8

出所：中国地方 … 「中国地域鉱工業生産動向」 (経済産業省中国経済産業局)

全 国 … 「鉱工業生産・出荷・在庫指数」 (経済産業省)